

**Bernard Buffet**  
**et la photographie -**  
 Buffet et son époque sous  
 l'oeil de l'objectif : vers le XXI<sup>e</sup> siècle

2026 4/3 Fri → 9/1 Tue

ベルナール・ビュフェ  
 ロベール・ドアノー  
 リュック・フルノル  
 フィオナ・タン  
 川内倫子  
 澤田知子  
 鈴木理策  
 杉本博司  
 野口里佳  
 松江泰治  
 宮本隆司  
 米田知子 他



リュック・フルノル《カマルダの闘牛場》1958年、ベルナール・ビュフェ美術館 ©Luc Pourcel

ベルナール・ビュフェと写真  
 カメラがとらえたビュフェとその時代、そして21世紀へ

2026  
 4  
 /  
 3 金  
 ↓  
 9  
 /  
 1 火

Monsieur Bernard Buffet

**ベルナール・ビュフェ美術館**

〒411-0931 静岡県長泉町東野 515-57  
 Tel. 055-986-1300 Fax. 055-987-5511 www.buffet-museum.jp

開館時間 | 10:00 - 17:00 ※入館は閉館の30分前まで  
 休館日 | 水曜日・木曜日（祝・休日の場合は開館し、翌金曜日を休館）※開館情報は公式サイトでご確認ください  
 入館料 | 大人 1,500円（1,400円） / 高・大生 750円（650円） / 中学生以下無料 / 障害者手帳ご持参の方は半額、付き添い1名無料  
 ※（）内は20名以上の団体割引  
 主催 | ベルナール・ビュフェ美術館  
 後援 | 静岡県教育委員会、沼津市教育委員会、三島市・三島市教育委員会、裾野市・裾野市教育委員会、長泉町・長泉町教育委員会  
 清水町・清水町教育委員会、静岡新聞社・静岡放送

## Exhibition Overview

# ベルナール・ビュフェと写真

## ーカメラがとらえたビュフェとその時代、そして21世紀へ

19世紀中頃に技術が確立されると、写真は瞬く間に世界中に広がっていきました。ベルナール・ビュフェが活躍した時代は、写真が発明されてから100年以上経過していましたが、技術の向上と普及の速度には目覚ましいものがありました。

ビュフェ自身が写真を撮ることはなかったものの、戦後のパリで早熟の天才として称賛された彼を、リュック・フルノルやロベール・ドアノーなど、同時代の写真家たちは被写体として見逃しませんでした。ビュフェをとらえた写真は、同時代の雑誌『パリ・マッチ』などに掲載され、ビュフェ・イメージの形成をうながします。つまり彼らの作品は、戦後の写真表現を示すとともに、ビュフェのポートレートでもあったのです。それらの写真をビュフェが描いた自身の肖像画と比較することで、わたしたちは彼の芸術をより深く鑑賞できるはずです。

加えて、ベルナール・ビュフェ美術館は、ビュフェと同時代の写真家たちの作品だけでなく、現代のアーティストたちによる写真作品も多数コレクションしています。杉本博司のフォトジェニック・ドローイングや、米田知子の「見えるものと見えないもののあいだ」シリーズ、フィオナ・タンの《人々の声》などは、フルノルやドアノーとは主題、技法、色彩などの点で大きく異なっており、今日に至る写真表現の大きな変化を示しています。

本展は、ベルナール・ビュフェと写真との関係に注目し、戦後から現代にいたる写真の変化の流れを追う展覧会です。

### 【会期】

2026年4月3日(金)～9月1日(火)

### 【出品作家】

ベルナール・ビュフェ、ロベール・ドアノー、リュック・フルノル、フィオナ・タン、川内倫子、澤田知子、鈴木理策、杉本博司、野口里佳、松江泰治、宮本隆司、森村泰昌、米田知子 他

\* 出品作家は変更になる場合がございます。

## Highlights

### ・ハイライト①

## 写真家としての家族

### —シャルル・ビュフェとクロード・ビュフェ

本展はベルナール・ビュフェの家族、父親のシャルルと兄のクロードが撮影した写真の紹介から始まります。

シャルルの写真は、まだ画家になる前の若いベルナールの姿を、父親ならではの視点で捉えています。一方で、クロードの写真は、画家として活躍しているベルナールの生き生きとした姿を切り取っています。二人の写真は、家族に見せるベルナールの特別な表情を教えてくれると共に、戦後のパリでカメラが一般に普及し、写真の撮影が容易になっていた事も教えてくれます。



### ・ハイライト②：親密な光景—リュック・フルノルの写真

ハイライトの二つ目は、リュック・フルノルの写真です。フルノルはパリ生まれの写真家で『パリ・マッチ』や『アール』などの雑誌で活躍していました。彼は写真家であると同時にビュフェの友人でもありました。そのためフルノルは、アトリエに入ることで、且つその様子を写真に収めることの出来た数少ない人物です。彼が撮影した写真には、柔らかな表情と親密な雰囲気をもったビュフェの姿が収められています。ここではフルノルの写真を通じて、プライベートなビュフェの肖像を辿ります。



## Highlights

## ・ハイライト③： ビュフェ・イメージと「偽装する」肖像画

三番目のハイライトは、写真や雑誌、書籍などを通じて形成されたビュフェ・イメージとビュフェが描いた肖像画との比較です。戦後のパリでは雑誌『パリ・マッチ』などにビュフェの写真がしばしば掲載されていました。若くして成功したビュフェと言う画家のイメージは、当時のメディアによって作られていきます。そうした自身のイメージを裏切るかのように、ビュフェは似ても似つかない自画像を制作していました。当時の雑誌や写真とビュフェの肖像画とを比較することで、ビュフェ・イメージとはどのようなものだったのかを辿りつつ、ビュフェが描いた作品の特徴を浮かび上がらせてみます。



## ・ハイライト④： 日本人写真家が捉えたビュフェー南川三治郎と桑原英文

四番目のハイライトは、二人の日本人写真家が撮影したビュフェの写真です。南川三治郎は、1980年にビュフェが初来日したとき、彼の日本旅行に同行した写真家です。南川は初めての日本を楽しむビュフェの姿をカメラで捉え続けました。

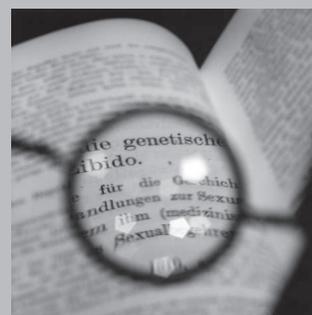
初来日の後、ビュフェは度々日本を訪れるようになりました。1987年には三度目となる訪日を果たしています。実はこの来日に際して、雑誌『FOCUS』はビュフェの特集を組む計画を立てていました。結局、企画は実現しなかったものの、87年の旅に同行し、当時のビュフェを撮影したのが写真家の桑原英文です。本展ではこれまで未公開だった、日本人写真家がそれぞれ80年と87年とに撮影した日本旅行の写真を公開いたします。



## Highlights

### ・ハイライト⑤： 写真表現の変容— ベルナール・ビュフェ美術館の現代写真コレクション

最後のハイライトは、当館が所有する現代写真のコレクションです。当館はビュフェの名前を冠し、彼の作品を中心に収蔵する美術館ですが、その一方で、フィオナ・タン、杉本博司、川内倫子、米田知子などの現代アーティストによる写真も多数コレクションしています。本展に於ける最後のセクションでは、現代写真を中心に展示し、ビュフェの時代から大きく変化した写真表現について考えます。



## IMAGES

### 【広報用画像資料】

広報用にお使いいただける画像をご用意しています。

お申込み、お問い合わせについては次ページをご覧ください。

クレジット表記は各画像下の内容をご利用ください。(原題表記が必要な場合お問い合わせください)



2

クロード・ビュフェ  
《ラルク城のベルナール・ビュフェ、  
1960年》

1960年、© Blanche Buffet

シャルル・ビュフェ

1

《1940年3月31日、サン＝カスト：

ベルナールとクロード》1940年、© Blanche Buffet

IMAGES

【広報用画像資料】



3 リュック・フルノル  
《カマルグの闘牛場》1958年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
ベルナール・ビュフェ美術館、  
©Luc Fournol

4 リュック・フルノル  
《サン＝トロペ、1958》  
1958年、ゼラチン・シルバー・プリント、  
ベルナール・ビュフェ美術館、©Luc Fournol



5 ベルナール・ビュフェ  
《自画像》1955年、  
カンヴァスに油彩、静岡新聞



6 南川三治郎、1980年、  
ベルナール・ビュフェ美術館  
©南川三治郎

7

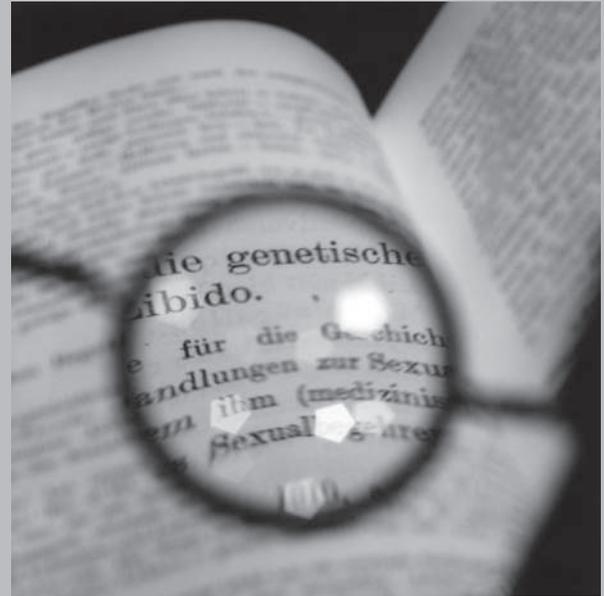
桑原英文、1987年、  
撮影：桑原英文



IMAGES



8 フィオナ・タン 《人々の声 東京》2007年、  
写真インスタレーション、  
額装されたカラー写真305枚、  
ベルナール・ビューフェ美術館  
© Fiona Tan, Courtesy of Wako Works of Art



9 米田知子  
《フロイトの眼鏡  
ーユングのテキストを見るII》  
1998年、ゼラチンシルバープリント、  
ベルナール・ビューフェ美術館  
© Tomoko Yoneda,  
Courtesy of ShugoArts



10 杉本博司  
《フォトジェニック・ドローイング 005  
ルイーザ・ガルウェイとホレーシア・フィールディング、  
レイコック・アビー、1842年8月29日》  
2009年、調色銀塩写真、ベルナール・ビューフェ美術館  
© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi



11 松江泰治 《JP-22 24》  
2005年、発色現像方式印画、  
ベルナール・ビューフェ美術館、  
©TAIJI MATSUE, Courtesy of TARO NASU

**INQUIRY**

**【広報用画像資料申し込み用紙】**

前ページ掲載の作品について画像資料（デジタルデータのみ）をご用意しています。

ご希望の場合は□にチェック  を入れ、必要事項をご記入の上、FAXにて055-987-5511まで、  
あるいは必要事項と画像の番号をE-mailにてinfo@buffetmuseum.or.jpまでお申し込みください。

- お願い
- ・クレジット表記は前ページ画像下の情報をご利用ください。
  - ・掲載誌一部をご送付ください／掲載サイトのURLをお知らせ下さい。
  - ・取材にご来館くださる場合は事前に担当者までご一報ください。

---

貴媒体名

---

掲載号	発売・公開日等	年	月	日
-----	---------	---	---	---

---

貴社名	ご担当者名
-----	-------

---

Tel	Fax
-----	-----

---

E-mail

---

ご住所

---

- |                            |                             |                             |                            |
|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 | <input type="checkbox"/> 2  | <input type="checkbox"/> 3  | <input type="checkbox"/> 4 |
| <input type="checkbox"/> 5 | <input type="checkbox"/> 6  | <input type="checkbox"/> 7  | <input type="checkbox"/> 8 |
| <input type="checkbox"/> 9 | <input type="checkbox"/> 10 | <input type="checkbox"/> 11 |                            |

**FAX : 055-987-5511 / E-mail : fukuoka@buffetmuseum.or.jp**

**【お問い合わせ】**

展覧会担当：福岡（ふくおか）

ベルナール・ビュフェ美術館  
 静岡県駿東郡長泉町東野 515-57  
 TEL 055-986-1300  
 fukuoka@buffetmuseum.or.jp

## GENERAL INFORMATION



所在地 〒411-0931 静岡県長泉町東野 515-57 TEL 055-986-1300 FAX 055-987-5511

入館料 大人：1500円 高・大学生：750円 中学生以下：無料

この料金で全館をご覧いただけます。 ※20名以上の団体は100円引き

**通常休館日：水曜日・木曜日（祝・休日の場合は開館し金曜日を休館）**

※詳細は公式サイトでご確認ください

**開館時間 10:00-17:00 ※入館は閉館の30分前まで**

アクセス 自動車の場合 新東名・長泉沼津 I.C. または東名・沼津 I.C. → 伊豆縦貫道（東駿河湾環状道路）→ 長泉 I.C. 出口  
R246を右折 / 「城山」交差点左折 / 静岡がんセンター方面へ（新東名長泉沼津 I.C. より約5km）

電車の場合 JR東海道線 [三島駅] 下車

南口より富士急シティバス駿河平線（運行本数に限りがあります。詳細はウェブサイトをご覧ください）

同時開催！

# 杉山明博追悼展 「木とわたし—木工の妙技と美術教育」

木を使った造形作家であり、美術教育者でもあった杉山明博氏が、昨年9月に亡くなりました。杉山氏は函南町に生まれ、亡くなるまで静岡を拠点に制作を続けていました。その活躍は、昨年の秋田県立近代美術館での展覧会や、おかざき世界子ども美術博物館での個展など、日本全国で高く評価されています。当館と杉山氏の関係としましては、当館主催のこども対象の「絵画展」にて長年審査員を引き受けていただいたり、数年間館長としてお勤めいただいたりと、強い結びつきがございます。

本展では、当館の別館展示室に彼の作品を一堂に展示し、木にこだわり制作し続けた彼の仕事を再びご覧いただくと同時に、彼の美術教育に関する理念をパネル等で紹介します。これにより、現代社会における美術のあり方について彼の考えを感じ取る機会とし、改めて彼の功績を振り返ります。

杉山明博追悼展

# 木とわたし

木工の妙技と美術教育

2026年  
4/3 FRI. - 9/1 TUE.

ベルナール・ビュフェ美術館 別館2階  
開催時間：10:00～17:00 ※入館は開館の30分前まで  
休 日：水曜日・木曜日（祝・休日の場合は翌金曜日を休館）※開館情報は公式サイトをご確認ください  
入 場 料：大人1,500円（1,400円）／高・大学生750円（650円）／中学生以下無料 ※（JPN）2025年4月25日現在  
主 催：一般財団法人 ベルナール・ビュフェ美術館  
後 援：静岡県教育委員会、沼津市教育委員会、三島市・三島市教育委員会、裾野市・裾野市教育委員会、長泉町・長泉町教育委員会、清水町・清水町教育委員会、静岡新聞社・静岡放送

Musée Bernard Buffet

ベルナール・ビュフェ美術館  
〒411-0201 静岡県沼津市東町15-57  
Tel. 055-986-1320 Fax. 055-987-5211 www.buffet-museum.jp